

概要

フォルダやファイルを比較するツール。比較中にファイルや行のコピー/削除/編集も可能です。

- 2つのフォルダ、または2つのファイルを比較し、左半分と右半分に色つきで差異を表示します。
- 差異のある行/差異のない行/左のみの行/右のみの行を、それぞれ省いたり組み合わせて表示できます。
- タブバー形式で複数の比較対象を切り替えて表示できます。
- 各タブで比較しているファイルやフォルダの組を比較リストとしてファイルに保存し、再度表示できます。
- フォルダ比較表示の際、選択したファイルを左右間でコピー・削除ができます。その際、元のファイルを自動でバックアップします。
- ファイル比較表示の際、選択した行を左右間でコピー・削除できます。また、下部編集エリアで直接編集できます。
- ファイル比較表示の際、編集したファイルを保存する際、元のファイルを自動でバックアップします。
- ファイル比較表示の際、ツールが自動判定した左右の行の組み合わせを、手動で位置変更できます。
- ファイル比較表示の際、ファイルの一部分を別の位置に動かして比較する事ができます。ファイル変更で部分的に移動したものと比較する場合に便利です。
- ファイル比較表示の際、文字コードを自動判定して、UTF8ベースで比較する事ができます。
- 設定ファイルでメニューやメッセージの言語切り替えができます。英語と日本語を用意していますが、翻訳ファイルを記述すれば他言語も可能です。

属性

\$Program:	Differ
\$Filename:	Differ.exe
\$Description:	Folder and File Compare Tool
\$Company:	Nobuyuki Kobayashi
\$Copyright:	(C) Nobuyuki Kobayashi.

履歴

\$Version:
1.00.2014.0324: フォルダ比較版作成。仮リリース。
1.01.2014.0626: ファイル比較に対応。本リリース。
1.02.2014.0908: 2ウィンドウ間でのタブ移動に対応。
1.03.2014.0910: 行内容の詳細比較表示と編集に対応。
1.04.2015.0401: タイトルバーメニューからのReadMe表示を追加
1.05.2015.0405: タブグループの保存機能を追加
1.06.2015.0422: Reload Allボタンを追加
1.07.2015.0510: タブ領域へのグループファイルドロップ機能を追加
1.08.2015.0523: Ctrl+W押下でのタブ削除を追加
1.09.2015.0716: タブのスクロールボタンを廃止し、摘んでスクロールに変更
1.10.2015.0816: ShiftJISのダメ文字を含むパス名処理でのバグを修正
1.11.2015.0824: 行エディタ部分での文字削除時のカーソル移動不具合を修正
1.12.2015.1220: ファイルのプロパティ表記に対応。
1.13.2016.0815: ZIP圧縮時にファイル時刻が秒単位になる事への対応(ファイル時刻比較の修正)。
1.14.2016.1016: ボタン文字列、メニュー文字列の変更。ファイル比較へのフィルタ引き継ぎ停止。
1.15.2016.1119: 変数が多重で生成されていたのを修正。
1.16.2017.0226: ボタンに、Copy newer xxとDelete only xxを追加。
1.17.2017.0814: シフトキーを押しながら起動すると、メインスクリーンの中央に表示される機能を追加。
1.18.2017.1019: スレッド終了処理とファイル検索(->FindFirstFileEx)を差し替え。
1.19.2017.1202: ファイル比較にバイナリ表示を追加。iniファイル内での拡張子の記述方法を変更。
1.20.2017.1221: ファイルやフォルダをオープンするメニュー項目を追加。
1.21.2018.0129: コピーをWindows APIから自前版に変更。
1.22.2018.0131: VC++2015に変更。
1.23.2018.0225: MAPファイルを生成するように変更。
1.24.2019.0224: ライブラリを更新。

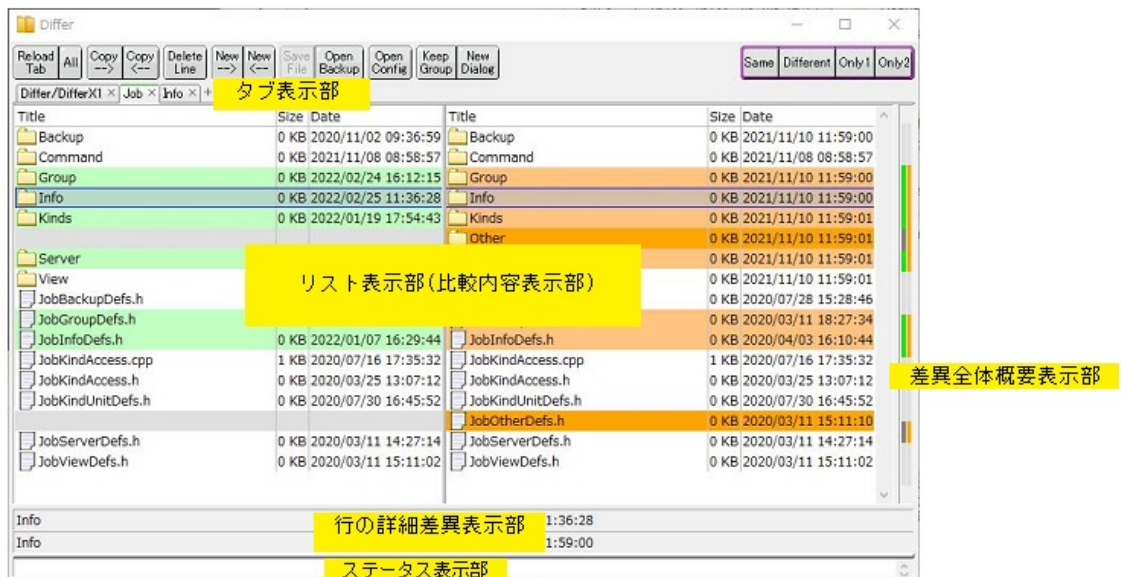
1.25.2019.0630: Stringライブラリを更新。
1.26.2019.0715: バックアップからの復元ダイアログ機能を追加。
1.27.2020.0225: Groupファイルの読み込み時に片方のフォルダが存在しない場合もタブを生成するように修正。
1.28.2020.0227: ライブラリを更新。
1.29.2020.0326: メッセージをダイアログ下部に移動した。
1.30.2020.0715: LayerRuleの読み込み構成を変更。
1.31.2020.0729: 内部文字コードをUTF8に変更。
1.32.2020.0729: EditBoxの拡張に対応。
1.33.2020.0810: 公開用にReadMe等を変更。
1.34.2020.0811: 文字コードを自動変換するように変換。
1.35.2020.0824: ファイルの文字コードを自動判別できない場合にERRORになるバグを修正。
1.36.2020.0828: 行編集領域のタブ位置が都度更新されないバグを修正。
1.37.2020.0829: 手動での合致判断箇所が比較時に反映されない場合があるバグを修正。
1.38.2020.1021: 設定ファイルの文字コードを維持するように修正。
1.39.2020.1029: フォルダ表示のシンプル表示モードを削除。
1.40.2021.0811: ウィンドウ位置をPrimary Screenに移動するメニューを追加。
1.41.2021.1107: フォント設定時の詳細表示領域のサイズ変更を追加。
1.42.2021.1108: カラーサイドバーの高さを変更。表示を高速化。。
1.43.2021.1108: バイナリ表示で左側の表示が右側にはみ出すバグを修正。
1.43.2021.1110: テキストファイルの比較方法を改善。
1.44.2021.1220: DeleteSideボタンを削除。
1.45.2021.1221: マウスによる行ドラッグで、Connect できるようにした。
1.46.2022.0105: マウスによる行ドラッグで、Float できるようにした。
1.47.2022.0227: メニュー選択で、ConnectとFloatのドラッグ状態に移行できるようにした。
1.48.2022.0228: 起動時に接続されているディスプレイ外に表示されている場合はメインスクリーンの中央に再配置するようにした。
1.49.2022.0302: システムメニュー選択によるヘルプ表示を追加。
1.50.2022.0410: 日本語表示用言語ファイルを作成。
1.51.2022.0707: ファイルの末尾が片方しかない場合、ファイル比較時に片方しかない場合、の表示が抜けていたバグを修正 (Connect/Floatバグ)。

コマンドライン指定

Differ.exe -g グループファイル む。他の引数は無視されます。	... KeepGroupボタンで保存した各タブの比較対象リストを記述したファイルを読み込
Differ.exe パス名1 [パス名2] にパス名1だけを表示します。	... パス名1とパス名2を比較対象として表示します。パス名2を指定しない場合は、左側の枠

- 前回表示位置とサイズを記憶しますが、サブディスプレイに表示していてサブディスプレイが無くなった場合などは、メインスクリーンの中央に再配置します。
- ウィンドウメニューから「Move to primary screen.」を選択した場合も、メインスクリーンの中央に再配置します。

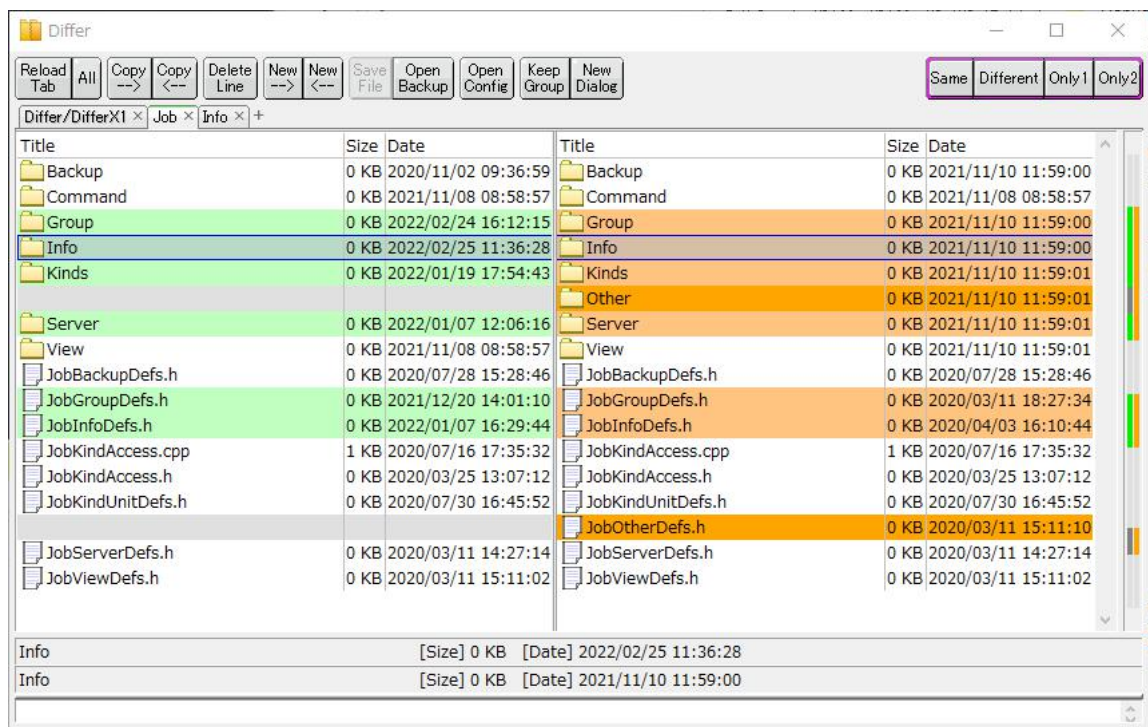
GUIの説明



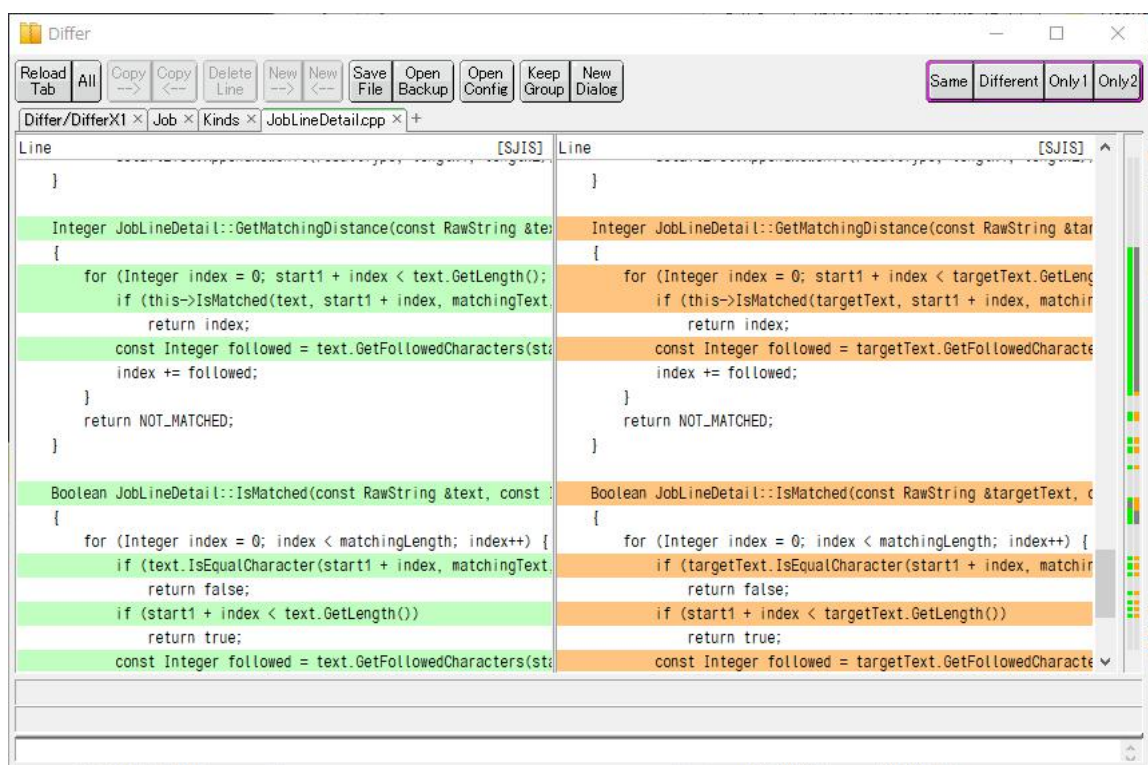
リスト表示部(比較内容表示部)

- 比較する2つのフォルダ、またはファイルを、左半分(Side1)と右半分(Side2)に表示します。Side1とSide2の差異のある行が色付きで表示されます。
- エクスプローラーからフォルダやファイルをSide1またはSide2にドロップすると、ドロップした側の対象が置き換わります。
- フォルダ比較表示の際、1行を選択してダブルクリックすると、その行の左右のフォルダまたはファイルの組で新しいタブが作成されます。
- フォルダ比較表示の際、右クリックメニューで選択した行のファイルまたはフォルダの、コピーや削除が実行できます。
- ファイル比較表示の際、右クリックメニューで選択した行のコピーや削除ができます。また、下段の行詳細差異表示部で行の内容を編集できます。
- ファイル比較表示の際、内容を編集していて未保存の状態では、ラベル行(Lineと書かれた先頭にある行)が黄色背景で表示されます。
- ファイル比較表示の際、内容を編集して未保存のままタブを閉じると変更内容は破棄されます。ただし、編集途中の内容を自動でバックアップします。
- テキストやバイナリファイルの読み込み最大バイト数(MaxTextLoading, MaxBinaryLoading)を設定ファイルで変更できます。
- テキストやバイナリファイルの読み込み最大バイト数を超える部分は読み込まれません。その場合、タイトル行が薄い紫色背景で表示されます。
- テキストやバイナリファイルの読み込みに何らかの要因で失敗した場合、タイトル行が薄い赤色背景で表示されます。
- テキストファイル比較表示の際、ツールが自動判定したSide1とSide2の比較する行の組み合わせを、メニュー選択やドラッグ&ドロップ操作で変更できます。
- 比較する行の組み合わせの位置変更機能は、後述の「リスト表示(比較内容表示)での比較する行の組み合わせの手動変更について」を参照してください。

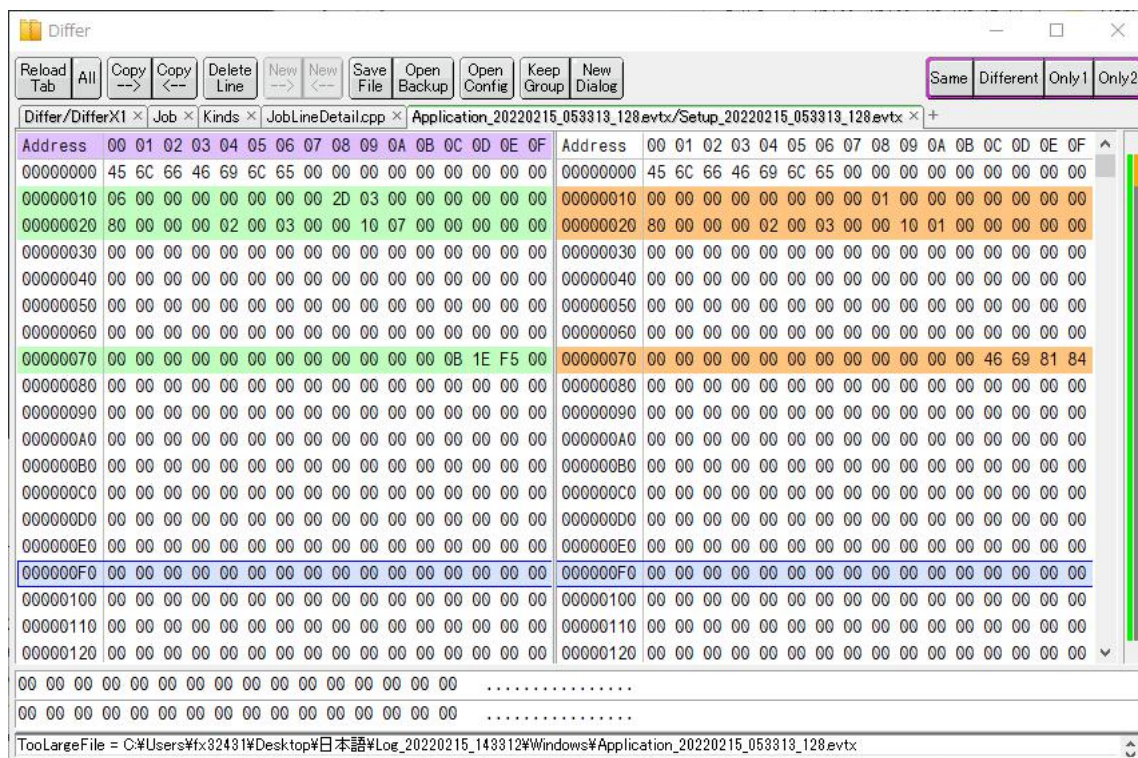
フォルダ比較画面(例)



テキストファイル比較画面 (例)



バイナリファイル比較画面 (例)



タブ表示部

- 比較する対象のフォルダやファイルの組をそれぞれタブとして表示します。パス名が省略表示されますが、右クリックメニューでパス名を確認できます。
- タブが多くなり表示しきれない場合は隠れた状態になります。タブを選択して左右カーソルを押下するか、タブを掴まんで左右に動かすと、隠れたタブが表示できます。
- タブの位置移動もできます。操作方法は後述の「タブのキーボード操作」の欄を参照してください。
- 比較する対象の名称が異なる場合は、「/」区切りで両方の名称を表示します。どちらかが空(未指定)の場合は、未指定側が「*」表示になります。
- 各タブの中で、上の階層のフォルダのタブが読み込まれていないタブを、ルートタブと呼びます。ルートタブは、名称が影付き文字で表示されます。
- Side1とSide2が一致すると判定されたタブは、名称がグレー文字で表示されます。
- Side1かSide2の内容が編集されていて未保存の場合は、タブ名称が赤文字で表示されます。
- フォルダ比較表示の場合と、ファイル同士の比較の場合で、ファイルの同一判定が異なる場合があります。設定ファイルで指定した判定方法に依存します。

差異全体概要表示部（リスト表示部の右側にあるの色付きの細長いバー）

- リスト表示部の表示対象のフォルダやファイルの差異全体が、縦長の細いバーに色付き表示されます。
- 差異全体概要表示部でマウスを左クリックすると、全体のうちクリックした部分の該当位置にリスト表示部がスクロールされます。

行の詳細差異表示部（下部の編集エリア）

- リスト表示部(比較内容表示部)でカーソルのある行の文字列が、上下に1行表示されます。上がSide1、下がSide2の内容です。
- リスト表示部がファイル内容比較表示の時、カーソル行に差異がある場合は、行の詳細差異表示部に色付きで差異が表示されます。
- リスト表示部がファイル内容比較表示の時、行の詳細差異表示部で、行の文字列を直接編集できます。
- 行の詳細差異表示部でカーソルの上下を押下した場合は、リスト表示部のカーソル行が上下に移動します（行の詳細差異表示部の対象行も上下の行に変更されます）。
- テキストファイル比較の場合、Enterキーを押下した場合は、その位置で行を分割します。その際リスト表示部のSide1/Side2比較が再実行されます。
- テキストファイル比較の場合、行の先頭でBackSpaceキーを押下した場合は、行の内容を前の行に連結します。その際リスト表示部のSide1/Side2比較が再実行されます。
- テキストファイル比較の場合、行の末尾でDeleteキーを押下した場合は、次の行の内容を現在行に連結します。その際リスト表示部のSide1/Side2比較が再実行されます。
- バイナリファイル比較の場合、Spaceキーを押下すると、次の編集位置にカーソルが移動します。

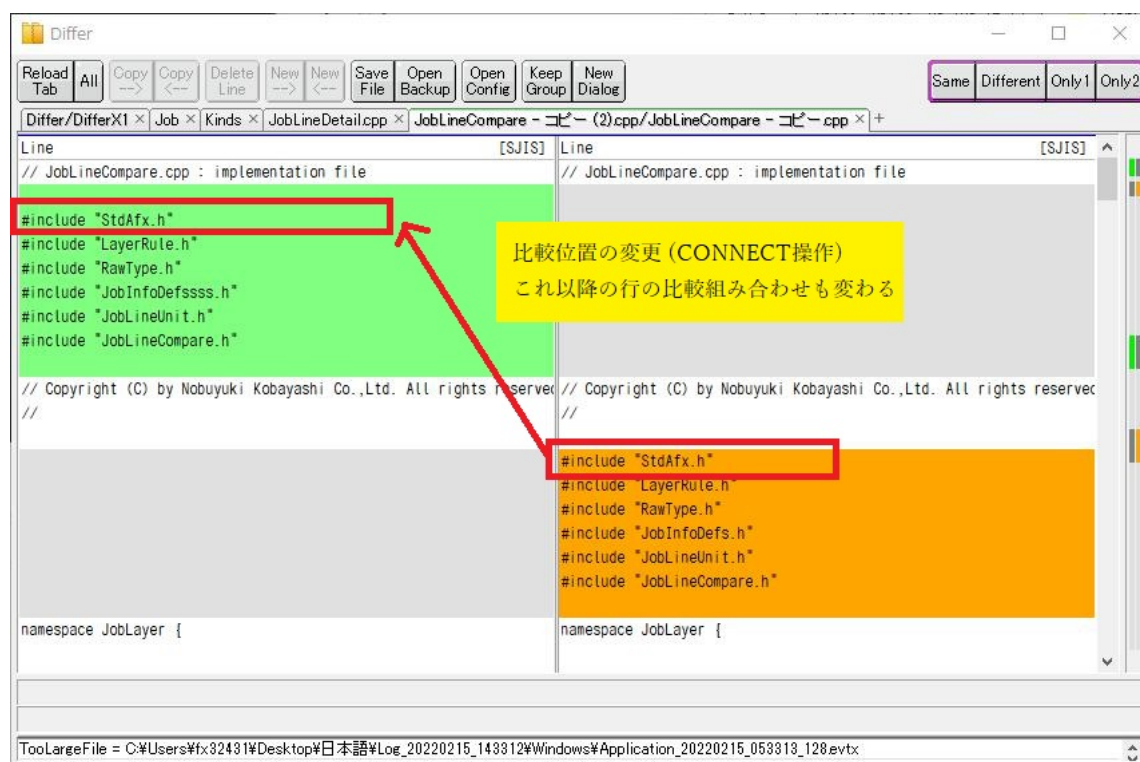
ステータス表示部 (最下部の 1 行領域)

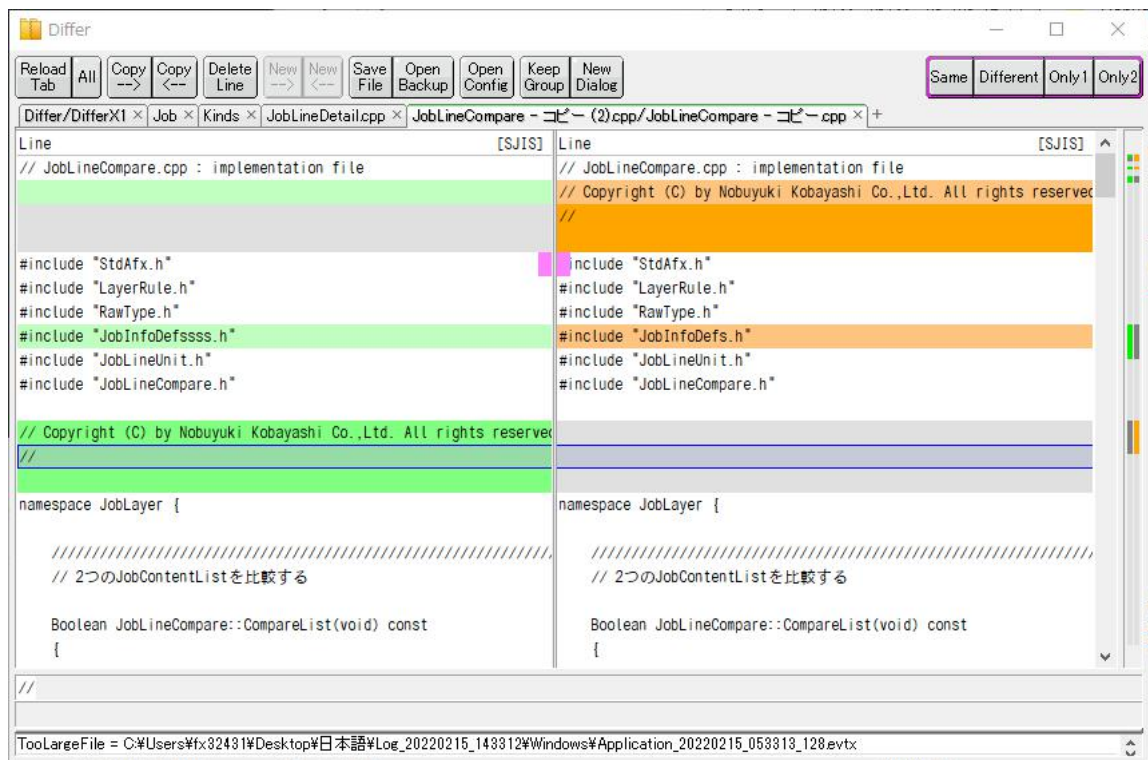
- エラー等が発生した際にエラー情報が表示されます。
- ステータス表示部の上の枠部分でマウスをドラッグすると、ステータス表示部の大きさを広げることができます。

リスト表示(比較内容表示)での比較する行の組み合わせの手動変更について

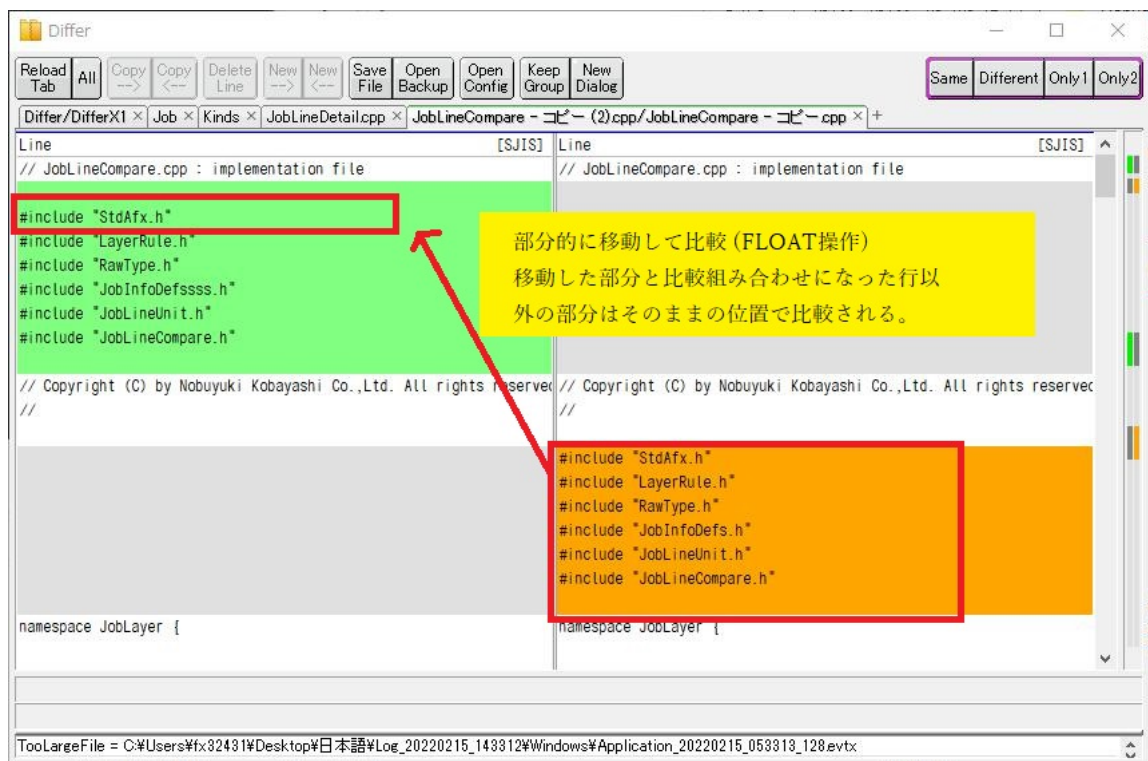
- ツールが自動判定したSide1とSide2の行の比較組み合わせを変更して、左右の指定した 1 行づつを強制的に比較するように位置変更する方法を CONNECT 操作と呼びます。
- 例えば、Side2の 1 行を選択して、マウスの左ボタンを押下したまま(ドラッグ操作)上に動かして左ボタンを放すと、放した位置のSide1の行と元のSide2の行が CONNECT されます。
- 上記ドラッグ操作中は、Side1側の行が赤枠で囲まれるので、CONNECT したい行が赤枠になった時にマウスの左ボタンを放します。
- 例えば、Side2の 1 行を選択して、右クリックメニューから「Drag for connect lines」を選択すると、ドラッグ中と同様の状態になります。マウスを左クリックすると CONNECT されます。
- CONNECT した行は、Side1とSide2の中央の境界部分が、四角くピンク色で表示されます。
- CONNECT した行を選択して、右クリックメニュー「Disconnect lines」を選択すると、CONNECT 状態を解除できます。複数行まとめて選択して解除できます。
- ファイルの一部を移動編集したような場合、比較時に、他の部分はそのまま移動した部分のみを反対側の違う位置と比較させる方法を FLOAT 操作と呼びます。
- 例えば、Side2の複数行をまとめて選択して、左ボタンを押下したまま(ドラッグ操作)上に動かして左ボタンを放すと、放した位置のSide1の行からSide2の対象部分の比較を始めます。
- 上記ドラッグ操作中は、Side1側の行が赤枠で囲まれるので、FLOAT比較したい行が赤枠になった時にマウスの左ボタンを放します。
- 例えば、Side2の複数行を選択して、右クリックメニューから「Drag for float lines」を選択すると、ドラッグ中と同様の状態になります。マウスを左クリックすると FLOAT比較されます。
- FLOAT 比較がされている時は、位置を移動して比較しているSideの指定した複数行が、紫枠で囲まれて表示されます。また、比較している行の中央の境界部分が、四角く紫色で表示されます。
- FLOAT した行を選択して(一部でも)、右クリックメニュー「Disconnect lines」を選択すると、FLOAT 状態を解除できます。複数行まとめて選択して解除できます。
- ドラッグ状態では、リスト表示枠の上端より上にマウスを動かすと、動かす動作に連動して上方にスクロールします。上端から離れるほど大きくスクロールします。
- ドラッグ状態では、リスト表示枠の下端より下にマウスを動かすと、動かす動作に連動して下方にスクロールします。下端から離れるほど大きくスクロールします。

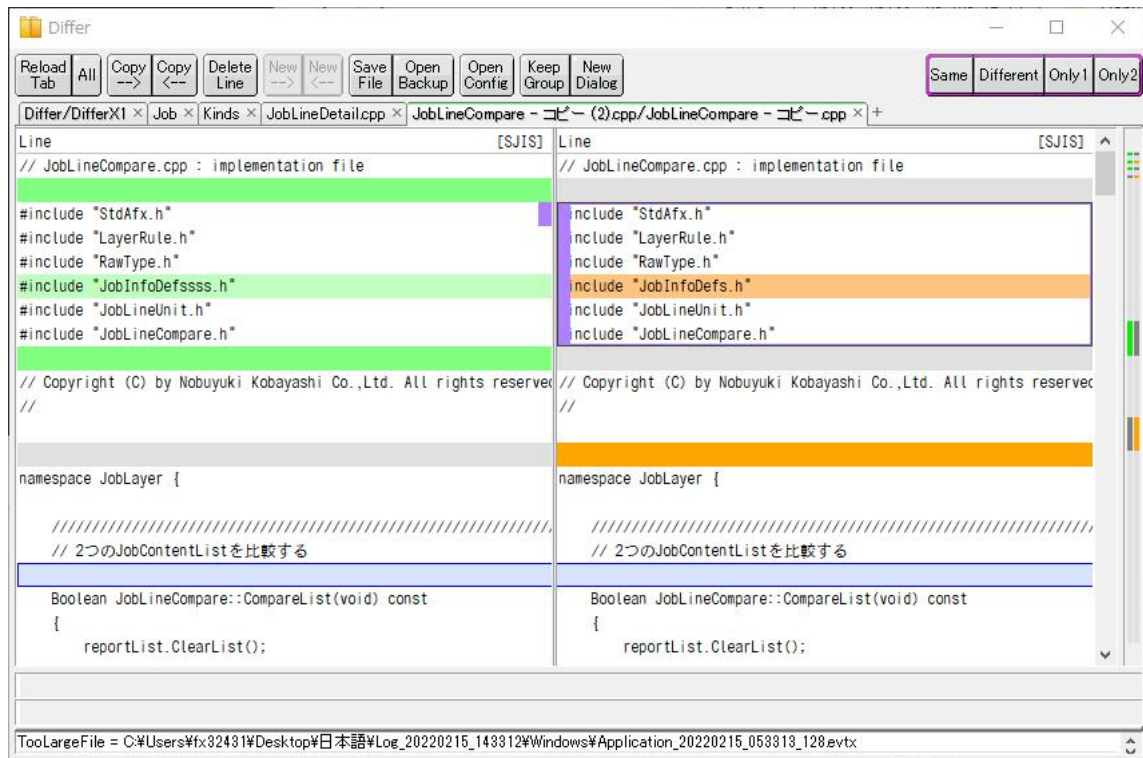
CONNECT 操作の前後の画面(例)





FLOAT 操作の前後の画面(例)





リスト表示部の右クリックメニュー

Reload tab 編集内容を自動バックアップします)	... 現在タブの2つの対象を再読み込みします。編集後未保存のファイルは破棄されます。(ただし、
Reload side (sideX) 容を自動バックアップします)	... 該当Sideの対象を再読み込みします。編集後未保存のファイルは破棄されます。(ただし、編集内
Save to file (sideX) 。(元の内容を自動バックアップします)	... ファイル比較表示の時、該当Sideの対象が編集後未保存の場合、修正内容をファイルに保存します
Open new tab	... フォルダ比較表示の時、カーソル位置の行の項目を対象として子タブを作成します。
Open path (sideX) 表示の時はファイルを開きます。	... フォルダ比較表示の時、カーソル位置のフォルダorファイルをWindowsで開きます。ファイル比較
Open base folder (sideX) 時は親フォルダを開きます。	... フォルダ比較表示の時、タブに読み込まれたフォルダをWindowsで開きます。ファイル比較表示の時
Copy to clipboard (sideX)	... 該当Sideの選択した範囲の内容をクリップボードにコピーします。
Load from clipboard (sideX) ブの場合だけ有効です)。	... クリップボードの内容をテキストファイルとして該当Sideに読み込みます (「*」表示の初期状態タ
... 読み込みできる最大の大きさが設定ファイルで指定できます。	
Recompare lines	... 選択行を再度比較し直します。編集した場合等に使います。
Drag for connect lines CONNECT 設定のドラッグ状態になります。	... 選択した行を CONNECT 操作で別の位置の行と強制比較したい場合にこの項目を選択します。
Drag for float lines FLOAT 設定のドラッグ状態になります。	... 選択した複数行を FLOAT 操作で、切り離して別の位置と比較したい場合にこの項目を選択します。
Clear connected lines	... 選択した複数行に含まれる CONNECT または FLOAT 操作の対象を解除します。
Copy selections 1 -> 2 のものを自動バックアップします)	... 複数選択した行の項目をSide1からSide2にコピーします。(ファイルやフォルダコピーの場合は元
Copy selections 1 <- 2 のものを自動バックアップします)	... 複数選択した行の項目をSide2からSide1にコピーします。(ファイルやフォルダコピーの場合は元
Delete selections	... 複数選択した行の項目を削除します。(ファイルやフォルダ削除の場合は自動バックアップします)
Delete selections (only sideX) 動バックアップします)	... 片方のsideについて、複数選択した行の項目を削除します。(ファイルやフォルダ削除の場合は自
Copy selections only newer files 1 -> 2 す。(自動バックアップします)	... (選択的に表示) 複数選択した行の項目を(再帰的に)、Side1側が新しいファイルをコピーしま
Copy selections only newer files 1 <- 2 す。(自動バックアップします)	... (選択的に表示) 複数選択した行の項目を(再帰的に)、Side2側が新しいファイルをコピーしま
Insert line before current (sideX)	... 選択した行の前に1行追加します。(編集操作)
Insert line after current (sideX)	... 選択した行の後ろに1行追加します。(編集操作)
Cursor to previous difference	... リスト表示部の中で、カーソルを前の差異位置に移動します。
Cursor to next difference	... リスト表示部の中で、カーソルを次の差異位置に移動します。
Handle this as text type テキスト型として扱うように設定します。	... フォルダ比較表示の時は選択中ファイルの、ファイル比較表示の時はそのファイルの、拡張子をテ
... ファイル比較表示の時は、一旦タブを閉じて開く事で反映されます。	

Handle this as binary type	... フォルダ比較表示の時は選択中ファイルの、ファイル比較表示の時はそのファイルの、拡張子をバイナリ型として扱うように設定します。
... ファイル比較表示の時は、一旦タブを閉じて開く事で反映されます。	
Specify path view font	... (選択的に表示) フォルダ比較表示の時の、表示フォントを指定します。
Specify text view font	... (選択的に表示) テキストファイル比較表示の時の、表示フォントを指定します。
Specify binary view font	... (選択的に表示) バイナリファイル比較表示の時の、表示フォントを指定します。
Execute xxxx	... (選択的に表示) 設定ファイルにUserCommandを記述した場合に、選択行のパス名(または表示ファイル)を引数として外部プログラムを実行します。

リスト表示部のキーボード操作

Ctrl+F	... 文字列を入力して、文字列の含まれる行を検索します。(フォルダ表示の場合はファイル名のみが対象)
Ctrl+S	... 文字列検索を逆方向に行います。
Ctrl+D	... 文字列検索を順方向に行います。
Ctrl+Wheel	... スクロール速度が2倍になります。
Ctrl+W	... 現在選択されているタブを削除します。
Ctrl+→	... メニュー「Copy selections 1 -> 2」と同じです。
Ctrl+←	... メニュー「Copy selections 1 <- 2」と同じです。
DELETE	... メニュー「Delete selections」と同じです。
RETURN	... メニュー「Open new tab」と同じです。
DoubleClick	... メニュー「Open new tab」と同じです。

タブメニュー

[1]…	... Side1に読み込まれたフォルダやファイルのフルパス名です。選択するとファイルやフォルダを開きます。
[2]…	... Side2に読み込まれたフォルダやファイルのフルパス名です。選択するとファイルやフォルダを開きます。
Copy path-1 name to clipboard	... Side1に読み込まれたフォルダやファイルのフルパス名をクリップボードにコピーします。
Copy path-2 name to clipboard	... Side2に読み込まれたフォルダやファイルのフルパス名をクリップボードにコピーします。
Reload tab	... メニューを表示したタブを現在タブに設定し、対象タブを再読み込みします。
... Side1/Side2が編集後未保存のファイルの場合は破棄されます。(編集内容を自動バックアップします)	
Reload all tabs	... 全タブを再読み込みします。
Delete tab	... メニューを表示したタブを削除します。
... Side1/Side2が編集後未保存のファイルの場合は破棄されます。(編集内容を自動バックアップします)	
Keep tab group to file	... 全タブの比較対象リストをファイルに保存します。保存したファイルは、タブ位置にドロップすると再利用できます。
Open new dialog with current tab	... 新しいダイアログを開き、現在のタブを読み込みます。
Copy tab data to clipboard	... 指定したタブの比較対象のパス名の組をクリップボードに保存します。
Recieve tab from clipboard	... クリップボードに保存されたパス名の組から、新しいタブを生成します。(2つのWindow間でタブを受け渡すための機能)
Select specified tab	... サブメニューから選択したタブを現在タブにする。表示を切り替えるのと同じ効果です。

タブのキーボード操作

タブを摘んで動かす	... タブ領域がスクロールします。
キーを押しながらドラッグ	... Shift、Ctrl、Altいずれかのキー押下とドラッグにより、タブの位置を移動します。
×マーククリック	... マークのあるタブを削除します。
+マーククリック	... 新規の空タブを作成します。
左右のカーソルキー	... 左または右(押下したキーの)タブを選択します。
Ctrl+Wキー押下	... 現在のタブを削除します。

ウィンドウ上部のボタン

Reload Tab	... 現在タブの2つの対象を再読み込みします。編集後未保存のファイルの場合は破棄されます。(編集内容を自動バックアップします)
All	... 全てのタブに対しReloadボタンの処理を実行します。
Copy -->	... リスト表示部の右クリックメニュー「Copy selections 1 -> 2」と同一動作です。
Copy <--	... リスト表示部の右クリックメニュー「Copy selections 1 <- 2」と同一動作です。
Delete Line	... リスト表示部の右クリックメニュー「Delete selections」と同一動作です。
New -->	... リスト表示部の右クリックメニュー「Copy selections only newer files 1 -> 2」と同一動作です。

New <--	... リスト表示部の右クリックメニュー「Copy selections only newer files 1 <- 2」と同一動作です。
Save File	... 現在タブの2つの対象のいずれかが編集後未保存の場合、編集内容をファイルに保存します。
Open Backup	... バックアップされた履歴をダイアログで開きます。個々に元に戻すことが可能です。
Open Config	... 設定ファイルをWindowsで開きます。
Keep Group きます。	... 全タブの比較対象リストをファイルに保存します。保存したファイルは、このボタンかタブ位置にドロップすると再利用で
New Dialog	... 別のDifferウィンドウを起動し、現在のタブの内容を引き継ぎます。

ウィンドウ上部のフィルタボタン

Same	... OFFの場合、リスト表示部の差異がない項目を非表示にします。(差異がある項目だけ表示)
Different	... OFFの場合、リスト表示部の両Sideが異なる項目を非表示にします。
Only1	... OFFの場合、リスト表示部の左側Sideだけの項目を非表示にします。
Only2	... OFFの場合、リスト表示部の右側Sideだけの項目を非表示にします。

- フィルタボタンは、枠が紫色はOn、灰色はOffを表します。
- フィルタの状態はタブごとに変更できます。また、フォルダ比較表示の時、子のフォルダ比較タブを開いた場合はフィルタが引き継がれます。

自動バックアップ機能

- バックアップフォルダ中に、時刻と操作名を名称とするサブフォルダを作成します。
- バックアップフォルダは設定ファイルで指定できます。デフォルトは、TEMPフォルダが使用されます。
- フォルダ比較表示の時、フォルダやファイルのコピーや削除時に、元のファイルをバックアップします。
- ファイル比較表示の時、編集後の保存時に、元のファイルをバックアップします。
- ファイル比較表示の時、編集後に未保存で破棄した場合は、編集した内容をバックアップします。

バックアップ履歴ダイアログ

バックアップ履歴ダイアログは、過去に実施したファイルコピーや保存操作を元に戻すためのダイアログです。

Restore !	... 選択した項目でバックアップしたファイルを一括してリストアします。複数選択が可能です。
Folder	... 選択した項目のバックアップデータが格納されているフォルダを開きます。
Detail	... 選択した項目の個々のファイルのリストを表示します。

- リスト表示領域に過去の履歴が新しい順に表示されるので、項目を選択し、リストアかDetail(ファイル単位での表示)を指定します。
- 薄緑色背景の項目は、プログラム起動後に実施したファイル操作の履歴で、白色背景は起動以前の操作履歴です。

バックアップ履歴ダイアログ (ファイルリスト表示)

バックアップ履歴ダイアログのファイルリスト表示は、1つの操作でバックアップしたファイルを、個々に元に戻すために使います。

Restore !	... 選択したファイルをリストアします。複数選択が可能です。
Folder	... 選択したファイルが格納されているフォルダを開きます。
Detail	... 選択したファイルを開きます。

- リスト表示領域にバックアップしたファイルのリストが表示されるので、項目を選択してリストアボタンを押下します。
- 薄赤色背景はバックアップ以降に対象のファイルが更新された事を示します。
- 薄緑色背景はバックアップしたファイルと元のファイルの日時が異なる事を示します。(リストアしていない状態)
- 白色背景はバックアップしたファイルと元のファイルの日時が同じ事を示します。(すでにリストアされた状態)
- 灰色背景はバックアップデータが保存されていない事を示します。(バックアップ時にツールで保存しない設定をしていた場合)
- リストア後は元のリスト表示領域が更新されないため、差分表示が実際とは異なります。再読み込みを実行してください。

差異検出の補足

- フォルダ間の差異検出では、設定ファイルの[JobParameter]項目に従い、同名ファイル同士を比較します。
- ファイルの差異検出では、各行の内容を比較して同一性を判定します。
- フォルダ比較表示内のファイル同士の比較結果が、ファイル比較表示の場合と判定が異なる場合があります。
- 比較条件は設定ファイルで指定できるので、例えば、内容は一致するがファイル時刻が異なる場合など、設定次第で判定が変化する可能性があります。

設定ファイル

プログラム(.exe)と同じフォルダにiniファイルが作成されます。

共通項目

[Common]	
Program=Differ	... 設定ファイルとして判断するための項目。(自動的に生成されます)
GuiProfile=xxxxx	... GUI関連設定を別の設定ファイルに書き込みます。
ConfigFile=xxxxx	... 動作設定情報を別の設定ファイルから読み込みます。
LanguageFile=xxxxx	... GUIの表示言語ファイルを指定します。ファイルがない場合は生成されます。未指定の場合は言語変換をしません。
Language=xxxx	... LanguageFile内の使用するセクション名を指定します。未指定の場合は「Default」が使われます。

- Common項目のパス指定で相対パスを指定した場合は、プログラムの置かれたフォルダからの相対に置き換えられます。
- Common項目のパス指定内で「\$(User)」を用いた場合は、ユーザの AppData¥Roaming¥プログラム名 に置き換えられます。

フォントの設定 (動作設定情報)

[PathViewFont]	... フォルダ比較表示時のフォントを指定します。
Height=13	... リスト表示部のメニューから設定すると、ダイアログで内容を指定できます。
:	
[TextViewFont]	... テキストファイル比較表示時のフォントを指定します。
Height=13	... リスト表示部のメニューから設定すると、ダイアログで内容を指定できます。
:	
[BinaryViewFont]	... バイナリファイル比較表示時のフォントを指定します。
Height=13	... リスト表示部のメニューから設定すると、ダイアログで内容を指定できます。
:	

各種パラメータの設定 (動作設定情報)

[JobParameter]	
BackupFolder=xxxxx	... バックアップ用のフォルダを指定します。デフォルトはユーザのTEMPフォルダ内に作成されます。
...	「BackupFolder=」だけを記述するとバックアップが作成されなくなります。
BackupDays=10	... 過去のバックアップを保持しておく日数を指定します。(デフォルトは 10 日)
GroupExtension=.cfg	... グループ保存ファイルの拡張子をピリオド付きで指定します。Windowsの関連付けはしません。(デフォルトは .cfg)
TimeForm=%Y/%m/%d %H:%M:%S...	フォルダ表示の際の時間形式を指定します。(デフォルトは %Y/%m/%d %H:%M:%S)
...	%Y=年(4桁) %y=年(2桁) %m=月(2桁) %d=日(2桁) %e=曜日(英3字) %j=曜日(漢字1字)
...	%H=時間(2桁) %M=分(2桁) %S=秒(2桁)桁 %l=ミリ秒(3桁)
ForeReadingLines=500	... テキストファイルの内容比較で、これ以上の行数での一致箇所先読みをしない。
MatchingChars=3	... 行の詳細差異表示部の差異検査で、一致と判断する文字数を指定します。
TabStop=4	... タブの幅を設定します。(デフォルトは 4)
LRMarginOnPath=2	... フォルダ比較表示時の各カラムの左右マージン幅を設定します。(デフォルトは 2 ピクセル)
LRMarginOnText=2	... テキストファイル比較表示時の各カラムの左右マージン幅を設定します。(デフォルトは 2 ピクセル)
LRMarginOnBinary=4	... バイナリファイル比較表示時の各カラムの左右マージン幅を設定します。(デフォルトは 4 ピクセル)
MaxClipLoading=0x7FFF	... 「Load from clipboard」メニューで読み込みできる最大のサイズを指定します。10進数でも可。(デフォルトは 0x7FFF バイト)
MaxTextLoading=0x100000	... テキストファイルの内容を読み込む最大バイトサイズ。これ以上は読み込まず表示を切り捨てます。10進数でも可。(デフォルトは 0x100000 バイト)
MaxBinaryLoading=0x100000	... バイナリファイルの内容を読み込む最大バイトサイズ。これ以上は読み込まず表示を切り捨てます。10進数でも可。(デフォルトは 0x100000 バイト)
OpenByUserCommand=False	... ファイルやフォルダをOpenする際、Windows設定でなく、下記のUserCommand設定を使う場合はTrueを指定します。
...	UserCommand設定で、TargetSide=Each,TargetKind=Text
CompareTimeBySecond=True	... ファイル時刻の比較時に秒単位で比較します。ZIP圧縮すると秒単位になる事への対応です。(デフォルトは True)

CompareTimeAsFatTime=True （デフォルトはTrue）	... ファイル時刻の比較時に1秒差を同一判定します。FATで時刻が2秒単位で記録される事への対応です。（デフォルトはTrue）
CompareSizeOnText=True	... フォルダ表示でのテキストファイルの比較で、ファイルサイズの比較を行います。（デフォルトはTrue）
CompareTimeOnText=True	... フォルダ表示でのテキストファイルの比較で、ファイル時刻の比較を行います。（デフォルトはTrue）
CompareByteOnText=False	... フォルダ表示でのテキストファイルの比較で、先頭4バイトの比較を行います。（デフォルトはFalse）
CompareDataOnText=False （デフォルトはFalse）	... フォルダ表示でのテキストファイルの比較で、全データの比較を行います。動作が遅くなります。（デフォルトはFalse）
CompareSizeOnOther=True	... フォルダ表示でのバイナリファイルの比較で、ファイルサイズの比較を行います。（デフォルトはTrue）
CompareTimeOnOther=True	... フォルダ表示でのバイナリファイルの比較で、ファイル時刻の比較を行います。（デフォルトはTrue）
CompareByteOnOther=False	... フォルダ表示でのバイナリファイルの比較で、先頭4バイトの比較を行います。（デフォルトはFalse）
CompareDataOnOther=False （デフォルトはFalse）	... フォルダ表示でのバイナリファイルの比較で、全データの比較を行います。動作が遅くなります。（デフォルトはFalse）

拡張子によるファイルタイプの設定（動作設定情報）

[Extension] cpp=Text bin=Binary ：	... 左辺に拡張子、右辺に「Text」か「Binary」を指定します。
--	--------------------------------------

- リスト表示部のメニューからも個々に設定ができます。
- 本ツールでは、テキストファイル以外をバイナリファイルとして扱います。

フォルダやファイルを開くコマンドの設定（動作設定情報）

ファイルやフォルダをOpenする際、Windows設定以外のコマンドを使いたい場合に指定します。

[OpenCommand] Command=C:¥xxx¥xxxx.exe Parameter="%s" ParameterNum="%s" -n %n Directory= ShowStatus=Normal Extension=txt,ini Folderと記述します。 ... [Extension]項目で設定した拡張子をすべて対象とする場合は、TextかBinaryと記述します。	... 複数の「OpenCommand」セクションを記述できます。 ... 実行するコマンドのフルパス名を指定します。 ... ファイル選択時にコマンドに渡す引数を指定します。「%s」がファイル名に置き換わります。 ... テキストかバイナリファイル表示で行を選択している際に、コマンドに渡す引数を指定します。「%s」がファイル名、「%n」がカーソル行数に置き換わります。 ... 実行する際の作業フォルダをWindowsに渡します。 ... 実行時の初期状態をWindowsに渡します。「Normal」「Maximize」「Minimize」「Hide」が指定できます。 ... この設定を使う拡張子を指定します。複数の拡張子をカンマ区切りで指定できます。フォルダの場合はFolderと記述します。 ... [Extension]項目で設定した拡張子をすべて対象とする場合は、TextかBinaryと記述します。
--	--

メニューやボタンから呼び出すコマンドの設定（動作設定情報）

メニューの追加項目やユーザーボタンから呼び出すコマンドを指定します。

[UserCommand] Name=xxxx Command=C:¥xxx¥xxxx.exe Parameter="%s1" ... 下記のTargetSideが「Each」の場合は「%s1」のみが使用されます。 Directory= ShowStatus=Normal が指定できます。 TargetSide=Each TargetLine=Single TargetKind=Text ... 実行対象がファイルの場合(Text+Binary)は「File」、全タイプを対象とする場合は「*」を指定します。	... 複数の「UserCommand」セクションを記述できます。 ... リスト表示部のメニュー項目名に使用されます。未指定の場合はメニューに表示されません。 ... 実行するコマンドのフルパス名を指定します。 ... コマンドに渡す引数を指定します。「%s1」「%s2」がファイル名に置き換わります。 ... 指定した場合、実行する際の作業フォルダをWindowsに渡します。 ... 指定した場合、実行時の初期状態をWindowsに渡します。「Normal」「Maximize」「Minimize」「Hide」が指定できます。 ... 両sideのパスをコマンドに渡す場合は「Both」片方のパスを渡す場合は「Each」を指定します。 ... フォルダ表示で1行のみ実行の場合は「Single」複数行を連続実行する場合は「Multiple」を指定します。 ... 実行対象がフォルダの場合は「Folder」テキストの場合は「Text」その他は「Binary」を指定します。 ... 実行対象がファイルの場合(Text+Binary)は「File」、全タイプを対象とする場合は「*」を指定します。
---	---

追加ボタンの設定（動作設定情報）

複数のユーザー定義のボタンを追加する事ができます。

[UserButton] Name=xxxx	... ボタン名を指定します。2行を表示可能で、改行する場合は¥nを挿入します。
---------------------------	--

:

ダイアログ表示パラメータの設定 (GUI関連設定)

Differのダイアログ表示に関するパラメータを指定します。

[WindowParameter]	
Margin=4	... ダイアログのアイテム間のマージンを指定します。
[ViewerDialog]	... 主ダイアログの表示位置が記録されます。GuiProfileを指定した場合はそのファイルに記録されます。
WindowRect_L=133	... 主ダイアログの左端の座標です。
WindowRect_T=373	... 主ダイアログの上座標です。
WindowRect_R=1217	... 主ダイアログの右端座標です。
WindowRect_B=976	... 主ダイアログの下端座標です。
FixRect=False	... Trueの場合は表示位置を変更しても記録を変更しません。(次回も設定位置で表示)

ダイアログフォントの指定 (GUI関連設定)

ダイアログの表示に使用するフォントを指定します。

[WindowFont]	... ウィンドウのベースフォントを指定できます。
Height=12	... フォントの高さを指定します。-の場合はポイント値を表します。
Width=0	
Escapement=0	
Orientation=0	
Weight=0	
Italic=0	
Underline=0	
StrikeOut=0	
Charset=1	
OutPrecision=0	
ClipPrecision=0	
Quality=0	
PitchFamily=0	
FaceName=	... フォント名称を示します。

ヘルプ (マニュアル)表示の指定 (GUI関連設定)

タイトルメニューの「View help.」または「Version: バージョン番号」項目を選択した際のマニュアル表示方法を指定します。

[Manual]	
Command=	... マニュアル表示コマンドの実行ファイル名です。
Parameter="%s"	... マニュアル表示コマンドの引数。%sがマニュアルファイルに置き換えられます。
Directory=	... マニュアル表示コマンドの作業フォルダを指定します。
ShowStatus=Normal	... ウィンドウ初期状態を指定します。「Normal」「Maximize」「Minimize」「Hide」が指定できます。
Manual=ReadMe_<本プログラム名>.txt	... マニュアルファイルを指定します。プログラムフォルダからの相対指定が可能です。

- この項目を指定しない場合は、MDHelp.exeを使って、ReadMe_<本プログラム名>.txt を表示します。
- MDHelp.exeが見つからない場合は、Windowsに設定されたテキスト表示プログラムを使って、ReadMe_<本プログラム名>.txt を表示します。
- [Common]のLanguage項目を設定していて、ReadMe_<本プログラム名>_<言語名>.txt がある場合は、そちらを優先して表示します。
- MDHelp.exeは、本プログラムのフォルダ、または MDHelpサブフォルダの下、または本プログラムフォルダと同じ並びのMDHelpフォルダの下、から探されます。

END